

平成29年2月13日

大阪経済記者クラブ会員各位

水都大阪コンソーシアム

「水都大阪コンソーシアム」の設立について ～水都大阪の「再生」から「成長」へ～



【お問合先】大阪商工会議所 地域振興部（担当：常深、小林）
TEL:06-6944-6323 FAX:06-6944-6330

水と光のまちづくり推進会議（大阪商工会議所、大阪府、大阪市、関西経済連合会、関西経済同友会で構成、会長＝尾崎裕・大阪商工会議所会頭）のもと、大阪の水辺を生かした都市魅力づくりに取り組む、新たな推進組織「水都大阪コンソーシアム」（委員長＝児玉達樹・大阪商工会議所常務理事・事務局長）が2月13日に設立した。

本組織は、行政や経済団体に加え、大阪観光局や民間の舟運事業者団体で構成される、公民一体型の組織であり、来阪外国人旅行者数の急増等を背景に、魅力的なクルーズをはじめ水辺・水上を楽しめる観光メニューの充実や、船から見える景色を意識した水辺の景観づくり等に取り組み、“水都大阪”を大阪の観光・都市魅力の主力コンテンツとして成長させることを目指す。

平成13年に内閣官房都市再生本部の都市再生プロジェクトに『水都大阪の再生』が採択されて以降、大阪では、行政・企業・市民の連携した水辺の賑わいづくりが約15年にわたり続いてきた。本組織はこの取り組みをさらに加速させるべく、本年4月より本格的に事業を開始する。

□ 組織概要

- （１）名 称 ： 水都大阪コンソーシアム
- （２）設 立 ： 平成29年2月13日
- （３）構 成 ： 大阪商工会議所、（公社）関西経済連合会、（一社）関西経済同友会、大阪府、大阪市、（公財）大阪観光局、大阪シティクルーズ推進協議会
- （４）役員・委員：添付資料の通り
- （５）事 務 局：大阪府咲洲庁舎（さきしまコスモタワー）内
※民間企業等からの出向者、及び行政担当職員の17名程度

以 上

＜添付資料＞

「水都大阪コンソーシアム 設立趣意書」

「水都大阪コンソーシアム 委員名簿」

「（参考資料1）水と光のまちづくり推進に関する基本方針」

「（参考資料2）水都大阪のめざす姿（平成29年1月24日水と光のまちづくり推進会議資料）」

水都大阪コンソーシアム

設立趣意書

大阪では、2001年、第3次都市再生プロジェクトに『水都大阪の再生』が採択されて以降、行政・企業・市民が連携し、水都大阪の再生に取り組んできた結果、都心部の河川に遊歩道・船着場が整備され、護岸・橋梁・高速道路橋脚には日常的なライトアップが施されるなど、大阪の水辺の風景は劇的に変化するとともに、それらを活かしたクルーズや規制緩和を活用した水辺の民間ビジネスが生まれるなど、日常的な水辺の利活用が進み、大阪は日本で最も水辺に賑わいのある都市となった。

我々は、こうした取り組みの成果をさらなる「成長」へとつなげ、水と光の魅力で世界の人々を惹きつける「水と光の首都大阪」の実現に向け、「水と光のまちづくり推進会議」より示された基本方針に基づくオール大阪での取り組みを進めるため、ここに水都大阪コンソーシアムを設立する。

平成29年2月13日

大阪商工会議所
公益社団法人 関西経済連合会
一般社団法人 関西経済同友会
大阪府
大阪市
公益財団法人 大阪観光局
大阪シティクルーズ推進協議会

平成29年2月13日

水都大阪コンソーシアム

委 員 名 簿

(順不同・敬称略)

【委 員 長】

大阪商工会議所 常務理事・事務局長	児玉 達樹
-------------------	-------

【副委員長】

大阪府府民文化部都市魅力創造局長	竹柴 清二
------------------	-------

大阪市経済戦略局理事	芳田 隆
------------	------

【委 員】

公益社団法人関西経済連合会 常務理事	出野 精二
--------------------	-------

一般社団法人関西経済同友会 常任幹事・事務局長	齊藤 行巨
-------------------------	-------

公益財団法人大阪観光局 専務理事	野口 和義
------------------	-------

大阪シティクルーズ推進協議会 会長	久ノ坪宏司
-------------------	-------

大阪府立大学 21 世紀科学研究機構教授 観光産業戦略研究所長	橋爪 紳也
------------------------------------	-------

大阪市立大学大学院工学研究科 准教授	嘉名 光市
--------------------	-------

以上 9 名

水と光のまちづくり推進に関する基本方針 ～「水と光の首都大阪」の実現に向けて～

大阪では、この 15 年、行政・企業・市民が連携し、水都大阪の再生に取り組んできた結果、都心部の河川に遊歩道や船着場が整備され、それらを活かしたクルーズや規制緩和を活用した水辺の民間ビジネスが生まれるなど、大阪の水辺の風景は劇的に変化するとともに、日常的な水辺の利活用が進み、大阪は日本で最も水辺に賑わいのある都市となった。また、公民が協力して進めた護岸・橋梁・高速道路橋脚の日常的なライトアップや、年々規模が拡大し、冬の風物詩として定着した「大阪・光の饗宴」など、大阪は日本でも有数の美しい光景観を楽しめる都市ともなった。

我々は、こうした取り組みの成果をさらなる「成長」へとつなげ、水と光の魅力で世界の人々を惹きつける「水と光の首都大阪」を実現するため、2020 年に向けて以下の方針を掲げ、オール大阪で取り組む。

◆世界に誇る「水と光のシンボル空間」の実現

大阪城から中之島、大阪湾までをつなぐ「東西軸」と都心部をコの字に流れる「水の回廊」を中心に、船が行き交い、人々が水辺で集い憩う、他都市に類を見ない水都大阪の修景づくりを進める。また、御堂筋や中之島を光で彩るとともに、民間主体の光のプログラムとも連携し、圧倒的な光景観を創出する。

こうした取り組みを通じて、世界に誇る「水と光のシンボル空間」を実現する。

◆水と光の広がりや厚みによる新たな魅力創造

多彩な民間の知恵を最大限活かした「水の回廊」とベイエリアとの連携、「大阪・光の饗宴」における地域連携の強化など、「水」と「光」の魅力を大阪のまち全体への魅力に広げるとともに、文化・スポーツ・グルメ・イベント等との連携によるナイトカルチャーや観光メニューの創出などによって新たな魅力を創造する。

◆誰もが憧れる「水と光の首都大阪」ブランドの確立

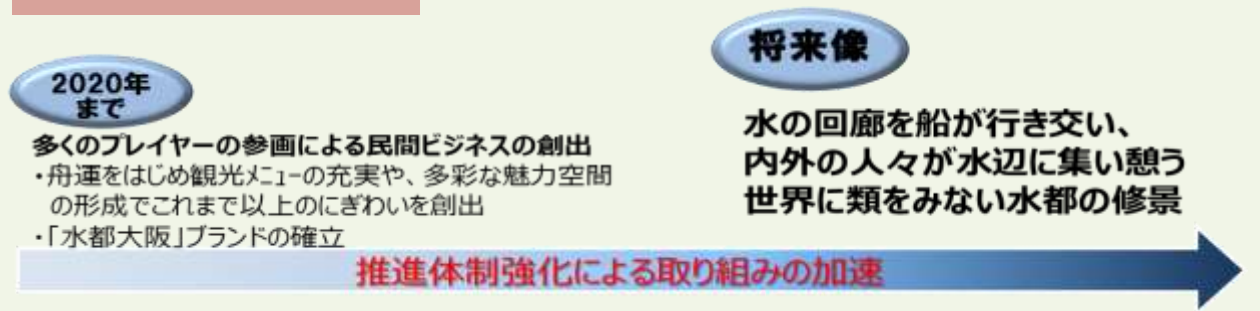
大阪を訪れる人々に感動を提供するとともに、多様な主体が連携し、大阪の「水」と「光」の魅力を戦略的・効果的に発信することで、誰もが憧れ、大阪の人々が誇りにできる「水と光の首都大阪」ブランドを確立する。

◆多彩な民の参画とビジネスの創出・活性化

「水」と「光」を活かした都市魅力創造の好循環の実現に向けて、公民の役割分担と強い連携のもと、これまでの取り組みの成果を踏まえ、水都大阪のさらなる成長をめざす公民共通のプラットフォーム「水都大阪コンソーシアム」によるネットワーク機能や、「大阪・光の饗宴」における取り組みを通じて、企業やクリエイティブな人材等の多彩な民の参画を促し、まちの魅力を高めるビジネスの創出・活性化やまちづくり活動の促進を図る。

以 上

◆水都大阪のめざすもの



◆次期フェーズでの課題

- ライトアップ・遊歩道等の充実した基盤整備を輝かせる民間ビジネス創出
- 増加するインバウンドを見据え、水都の魅力を極め観光プレゼンスを向上

◆基本コンセプト

水都大阪「再生」から「成長」へ

公民の力を結集し、水辺に携わる多くのプレイヤーの参画により
水と光の魅力にさらなる「広がり」と「厚み」を創出

◇広がり

水辺の拠点・観光資源をつなぐほか、ベイエリアや淀川舟運の胎動との連携によるネットワーク形成を通じ、水都大阪の魅力に「広がり」を創出

◇厚み

水辺に点在する観光・文化施設等との連携や、ライトアップなどの光景観を活かしたナイトカルチャーなど、水都大阪の魅力に「厚み」を創出



◆取り組みの3本柱 多様な水辺関係者とのネットワークで推進

I 舟運

広がり

- 新航路の開発や共同運航により、魅力あるクルーズの造成
- 船から見える景色を意識した水辺の景観づくりや、観光・クルーズの拠点創出
- 運航における安心・安全の確保や、防災機能との連携 ほか



II 水辺・水上

観光メニュー 厚み

「水都大阪 × ナイトカルチャー・ツーリズム」
● 文化・エンターテインメント・グルメ・光景観などと連携したプログラム開発

「水都大阪 × スポーツ・健康」

- 水辺のウォーキング・ランニング等をサポートするメニューづくりや、水辺・水上のスポーツ大会誘致

「水都大阪 × エリア・拠点の魅力」

- 民間開発・投資と連携した水辺環境づくり

- 水辺への誘客につながる水都大阪フェスの開催 ほか



III ブランディング・プロモーション

- 世界第一級の水と光のまちのイメージ発信
水都大阪の象徴となる風景(キー・スケープ)の発掘・発信
- メディア・エージェント等を通じた効果的な海外PRや、首都圏でのプロモーションの強化
- 企業サポーター等と連携した水都の魅力発信

水都大阪の成長

◆2020年の目標 <舟運利用者数>

2016 (H27年度)

78万人

2020 (H31年度)

100万人

※大阪都市魅力創造戦略2020における来阪外国人旅行者数の目標を踏まえ、舟運利用者における外国人数で同等の増加率を用いることにより設定

◆水の回廊の魅力・ポテンシャル

水辺には船着場に加え、ホテル、観光文化施設、MICE施設が立地
〔特に、中之島東部ゾーンには、歴史（政治・産業）関連施設
中之島西部ゾーンには、文化・芸術関連施設が集積〕
これらエリアのポテンシャル・個性をさらに磨き、多彩な魅力空間を形成

中之島 西部《重点》
ポテンシャル
『ラグジュアリー感のある都会的な景観』
☆都会的な景観や水と光を活かしたクルーズの充実
☆民間開発の動向に合わせた魅力的な水辺環境への誘導

☆**ほたるまち 街開き10年（2018年）**

木津川・安治川・尻無川
ポテンシャル
『新たなにぎわいを生むベイエリアと水の回廊の結節点』
☆大阪港開港150年事業、海の駅との連携などによる水の回廊への誘客
☆中之島GATEでの民間活力活用

☆**大阪港開港150年（2017年）**

道頓堀
ポテンシャル
『水都大阪を代表するにぎわい空間』
☆民間のにぎわい企画などとの連携

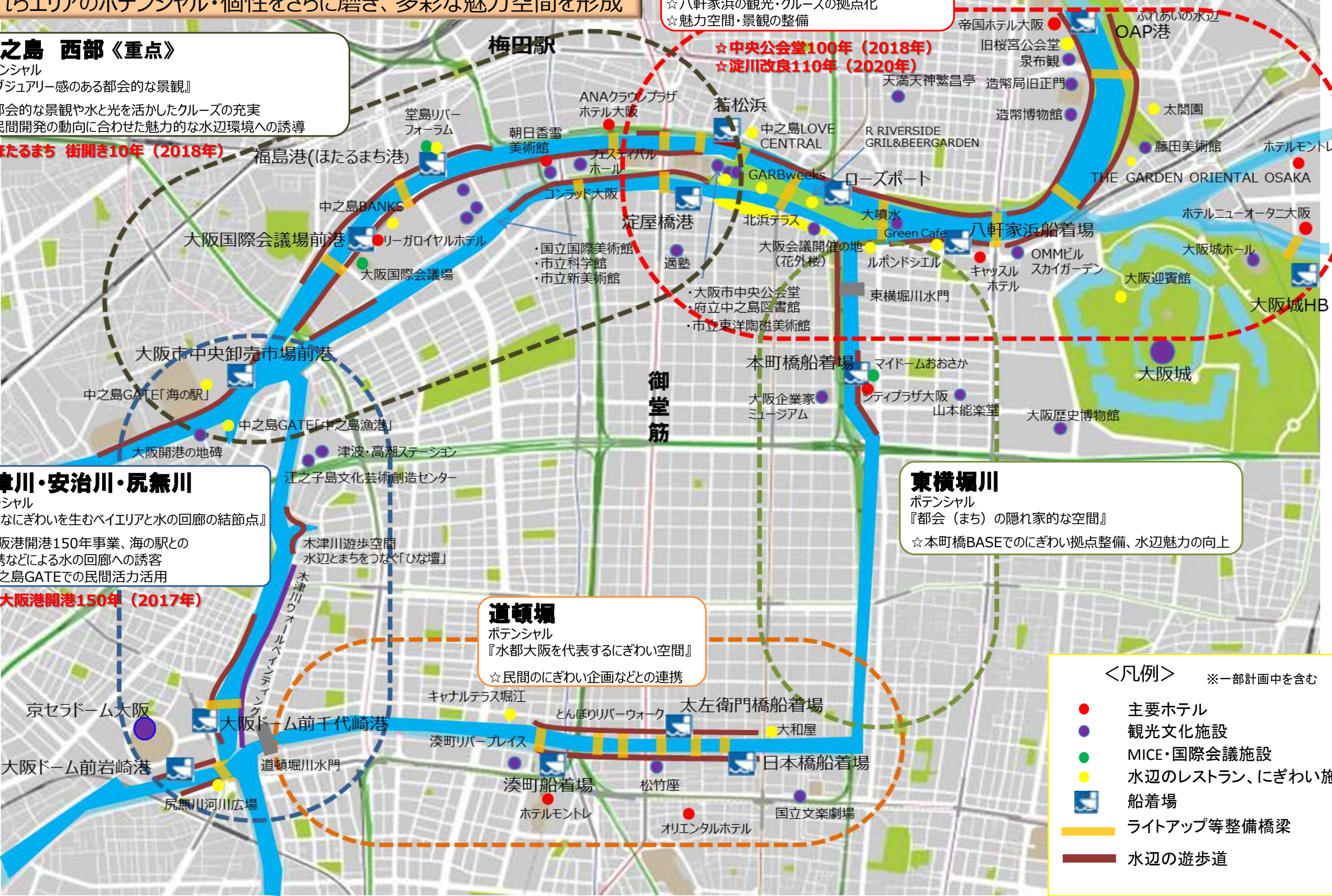
中之島 東部《重点》
ポテンシャル
『水都大阪を象徴する開放的な上質空間』
☆四季や歴史文化などの資源を活用した誘客
☆八軒家浜の観光・クルーズの拠点化
☆魅力空間・景観の整備

☆**中央公会堂100年（2018年）**
☆**淀川改良110年（2020年）**

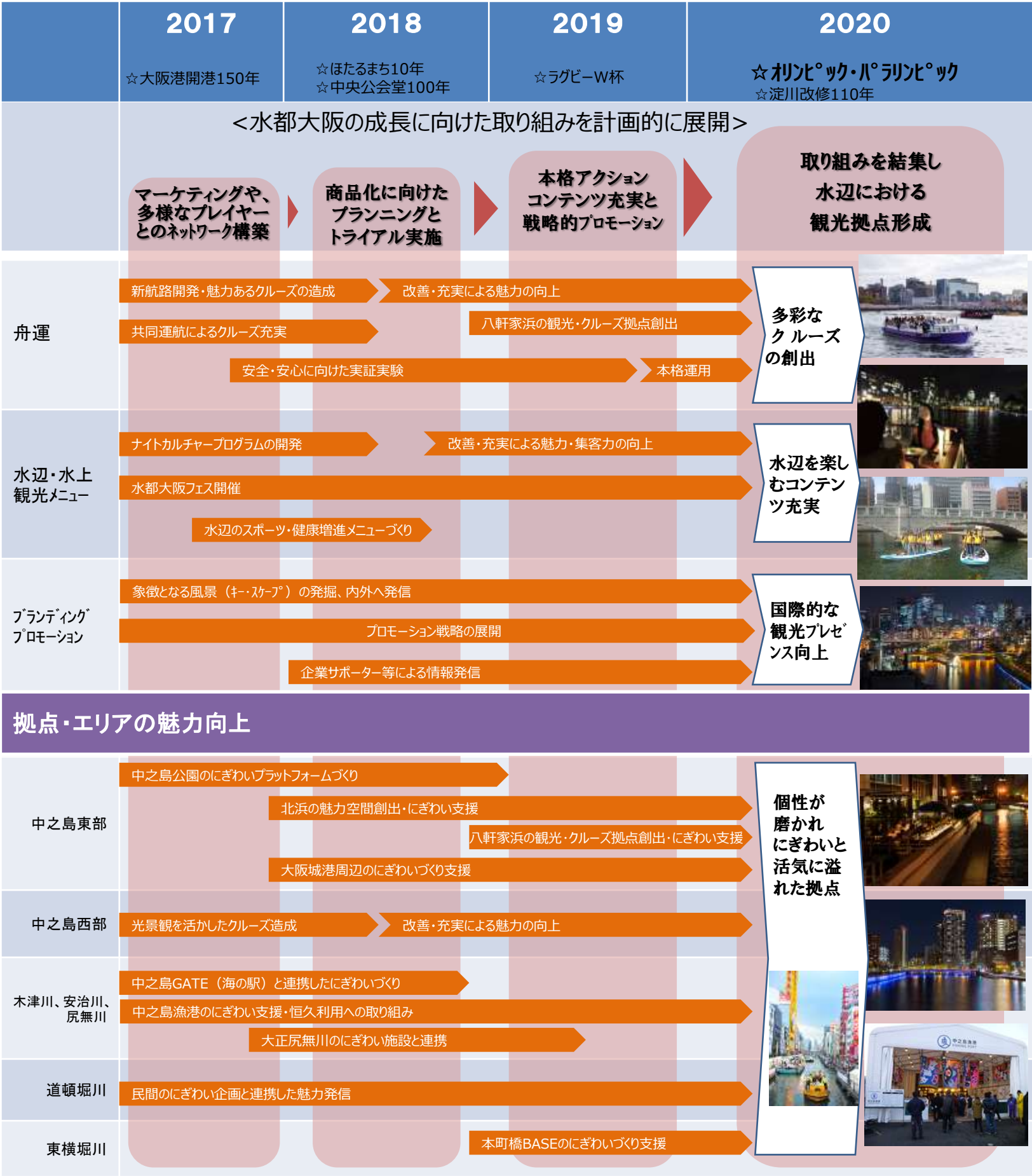
東横堀川
ポテンシャル
『都会（まち）の隠れ家的な空間』
☆本町橋BASEでのにぎわい拠点整備、水辺魅力の向上

＜凡例＞ ※一部計画中を含む

- 主要ホテル
- 観光文化施設
- MICE・国際会議施設
- 水辺のレストラン、にぎわい施設
- 🚢 船着場
- 🚦 ライトアップ等整備橋梁
- 🚶 水辺の遊歩道



◆ロードマップ(主要事業)



◆推進体制 公民共通のプラットフォーム

水と光のまちづくり推進会議

基本方針の提示

水都大阪コンソーシアム
（SOC）

＜構成団体＞

経済界（大商・関経連・同友会）		
行政（大阪府・大阪市）		
大阪 観光局	舟運団体 （大阪シティクルーズ 推進協議会）	学 識

〔委員長〕
大阪商工会議所 常務理事

〔副委員長〕
大阪府 都市魅力創造局長
大阪市 経済戦略局理事

〔委員〕
関西経済連合会 常務理事
関西経済同友会 常任幹事・事務局長
大阪観光局 専務理事
大阪シティクルーズ
推 進 協 議 会 会長
学識者

＜事務局＞

事務局長（企業出向等）
事務局次長（大阪府次長級職員）
職員（企業出向等、行政（府市）職員）

＜事務所＞

大阪府咲洲庁舎（さきしまコスモタワー）内

水の回廊を船が行き交い、内外の人々が水辺に集い憩う世界に類を見ない水都の修景